



# 富竹中だより

甲府市立富竹中学校  
学校だより第6号  
令和4年9月30日  
文責 菅谷 信

## 全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年度全国学力・学習状況調査が、全国の小学6年生と中学3年生を対象として実施されました。本校でも3年生が、4月19日（火）に参加しました。



この調査は、教科に関する問題（国語・数学・本年度は理科）と学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸問題等に関する質問紙調査に分かれています。教科に関する調査では，①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できることが望ましい知識・技能を問う問題，②知識・技能を活用する力や課題解決のための構想を立て，実践し評価改善する力を問う問題の2つを一体的に調査する内容となっています。この調査結果をもとに，本校の学力や学習状況を分析・把握し，各教科における成果や課題，生活状況の実態を明らかにすることで今後の指導の改善に役立てることを目的としています。

本年度は，2学期からこの結果を役立たせるため，文部科学省から7月末に結果が送付され，各教科担当が中心となって分析を行ってきました。また，この分析をもとに，富竹祭や新人戦の取組と並行して授業改善へ向けて取り組んでいるところです。つきましては，分析結果の概要を，取り急ぎお知らせいたします。3年生には個人票が配布されます。自己の結果を確認し，今後の学習に役立ててほしいと思います。1・2年生にも教科の授業改善や家庭学習の取組に生かしていくように活用していきます。

### 本校の状況

※「ほぼ同等」とは±5ポイントの範囲内にあることをいう

本校の平均正答率は，国語，数学，理科ともに全国平均と「ほぼ同等」の範囲内ではありますが，どの教科もやや下回る結果となりました。山梨県全体の結果は，国語・理科が全国をやや上回り，数学が全国と同じレベルを示しています。昨年度の調査は国語と数学のみでしたが，本校はどちらも上回っていましたので，少し残念な結果になっています。各教科の詳細は，以下に記述しています。



質問紙調査では，本校生徒の真面目さや素直さ，向上心の高さなどが顕著に表れる結果となりました。生徒と教師との良好な関係や授業に向かう生徒の前向きな姿勢も読み取れます。また，将来の目標を持ち，学校での学習が将来役に立つものであることを認識して努力している様子がみられます。新型コロナウイルスの感染拡大により，様々な制限に囲まれている生活ですが，自ら計画的に学習を続け，規則正しい生活を送っている生徒が，全国・県に比較してとても多いというのが，本校の特徴と言えます。学習に対する主体性や積極性が身につけてきたことが，落ち着いた学校生活の基盤となっているように思います。

ただ，スマホやコンピュータの使い方，テレビゲームに費やす時間の長さについての課題があることがあらためてわかりました。この点は，これからも家庭とのご協力をお願いしながら，引き続き取り組んでいく必要があります。

## 本校の主な成果と課題

### ★ 成果と課題

### 国 語



- 領域によっては全国や県の平均を上回るものもあったが、設問全体を通して、全国や県の平均に比べるとやや低い正答率となった。しかし、無解答率は低い。これは、基礎的・基本的な知識・技能が身につけているところもあるものの、領域によってはそこに課題が見られることを示すと同時に、無回答率の低さは問題を解決しようとする積極的な姿勢、学習への意欲の表れと言える。
- 「話すこと・聞くこと」については、設問により差は見られるものの、その中で「スピーチの表現」や「話し合いの進め方のよさを説明したもの」に関する設問の正答率が高い。
- 「書くこと」に関する設問の「引用の仕方や出典の示し方について理解し、自分の考えが伝わるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書く」ことに対し、全国・全県的には正答率が低く課題が見られたが、本校は全国・県の平均を上回っている。
- 「読むこと」に関する設問の「文学的文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて内容を捉える」ことの正答率が高い。
- △「我が国の言語文化に関する事項」の「行書の特長を理解する」の設問に関しては、全国・全県同様本校においても他の設問に比べて低い正答率となっている。行書の書き方については理解できているが、行書の特長を理解するのに課題がある。
- △「読むこと」に関する設問の「表現技法について理解する」に関して、全国・全県に比べて本校の正答率は低い。

### ★ 主な改善点

- ※「行書の特長の理解」に関しては、伝統的な文字文化と関連させて理解させながら、それぞれどのような書き方なのか、具体的に捉えて、実際に書けるように指導の時間を設ける。
- ※「表現技法の理解」に関しては、基礎的・基本的事項をもとに、文章や詩歌の中で実際にどのように効果的に使われているのか捉えさせる学習を行う。
- ※全国・全県的な課題である「書くこと～情報の扱い方に関する事項」については、引用する目的や効果について考えるように指導することが大切である。それを踏まえて、意見文を書く際には、自分の考えを支える根拠として資料を適切に引用することができるように、中学校1年生のうちから、継続的に指導することが大切である。

### ★ 成果と課題

### 数 学



- 「数と式」「データの活用」の2領域については、ともに県平均と全国平均を上回る結果となった。
- 全14問中、県平均や全国平均を上回る結果になったのは5問であった。特に結果が全国平均を大きく上回る問題としては、「自然数を素数の積で表すことができるか」を問う、いわゆる「素因数分解」の問題が+15.0ポイント。「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるか」を問う問題が+9.0ポイントであった。
- 無回答率については、全14問中13問が全国に対して低く、12問が県に対して低いなど、何とか分からないなりに食らいついていこうという姿勢は感じられる。
- △「図形」「関数」の2領域については、ともに県平均と全国平均を5ポイント前後下回る結果となった。このことが大きく影響して、全体で2ポイント弱程県平均や全国平均を下回ることにつながった。全体的に正答率が低い問題が、本校では極端にできていないことが大きな課題である。
- △全14問中、県平均を5ポイント以上下回る結果になったのは、6問であった。特に「一次関数の変化の割合を理解しているか」を問う問題では、全国平均と比較して、正答率が13.8ポイントも低く、関数に関する基礎的な知識の理解が不十分であることが読み取れる。また、「証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているか」を問う問題では、全国平均と比較して、正答率が11.1ポイントも低く、「三角形の合同条件」という重要な図形の定理を覚えていない生徒が多い状況があると考える。

## ☆ 主な改善点

- ※急務なのは、下位の生徒の底上げである。数学に対する苦手意識から、問題を見る前から諦めてしまっていると思われる生徒も少なくない。特に数学はいわゆる「積み重ねの教科」であるため、既習事項の定着が不十分であると授業についていけない場面が多々出てくる。そこで、これまでも新しい単元に入る前に「準備テスト」等を行うことで、その単元を学習するにあたって必要な予備知識等の振り返りをしてきたが、単元の途中でもこまめに既習事項の「振り返り」をしたり、「小テスト」の実施を通して「定着度」や「躓き」のチェックをしたりして、その後の指導に生かしていきたい。
- ※全体指導の中では十分な指導が困難な面もあるので、TTの有効活用や（新型コロナ対策としてなかなか難しい状況ではあるが、可能な範囲で）放課後などを活用した個別指導も検討する必要があるのではないかと考える。
- ※高校入試も近づいてきているので、まずは、公立高校の後期入試の大問①と②（計算問題6題と各単元の基本問題6題の計12題で36点分）レベルの問題が確実に解けるよう、過去問題を中心に数多く取り組ませていき、1問でも多く正答できるように指導していきたい。
- ※しっかりと覚えておくべき「用語」「性質」「定理」「公式」等の基本事項の徹底が不十分であるので、前項との関連で、徹底できるようにしていきたい。

## ☆ 成果と課題

## 理 科



- 設問全体を通して、平均正答率は全国や県に比べやや低い結果である。全体的に大幅に正答率の低い設問はほとんどなく、単元全体を通してまんべんなく基礎的・基本的な知識はついていると考えられる。しかし、今回の全国学力調査のように基礎知識を応用して解く問題に慣れていないと思われる。
- 「条件設定が必要な設問」「観察物を比較し、観点をもとに判断する設問」の正答率は全国に比べてかなり高く、根拠をもとにした論理的思考力・判断力は高いと思われる。
- △「雲の形をもとに判断する設問」「岩石の種類から判断する設問」の正答率は低い。基本的な知識はあるものの、いくつかの種類を対比して学習するものについては、それぞれの特徴が混同してしまう傾向にあると思われる。
- △全体を通して無回答率は低いものの、記述問題は苦手な傾向にあり、特に「考察の妥当性を高めるための課題検討」に関する問題では、25%の生徒が「無回答」であった。「どうすれば実験が成功と言えるのか」「どの方法なら仮説を正しく検証できるのか」を考え、自身の言葉で表現することを苦手としている生徒は多いと思われる。

## ☆ 主な改善点

- ※いくつかの種類を対比して学習する力が弱いことから、授業の中ではそれぞれの特徴を明確に強調することで、語句だけでなく特徴から判断する場面を設定する。
- ※授業の前後に記入する振り返りシートを用いて、自分の学習したことを自身の言葉で表現することを継続していくとともに、実験方法をそのまま教授するのではなく、課題解決のためにどのような方法が妥当なのかを考える場面を設定する。

## 質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で69項目ありました。本校生徒の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸問題などを表しています。主な特徴は次のとおりです。



## ☆ 家庭生活や学校生活について

- \*「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「スマホ等の使い方の約束を守っている」「計画を立てて勉強している」という質問に対し、「できている」と解答した生徒は全国や県と比較して、10%以上高い結果となった。これらから、本校生徒は比較的規則正しい生活を送っていると考えられる。
- \*「人が困っているとき、進んで助ける」「学校に行くのは楽しい」「学級では互いの意見の良さを生かし、解決方法を決めている」との質問に対しても、同様に10%以上上回る結果となった。生徒の優しい面や素直さの表れと言える。

- \* 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」の質問に「当てはまる」と答えた生徒は50%を超えているのに対し、「自分にはよいところがあると思う」に「当てはまる」は、40%に満たない結果だった。一方、「将来の夢や目標を持っている」生徒は70%以上おり、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」生徒は、90%近くいることがわかった。目標に向かって前向きに努力する姿勢が育っているが、自己肯定感が高いとまでは言えないようである。
- \* 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」生徒は80%以上で、年々向上しており、全国平均を大きく上回っている。逆に「全くしていない」生徒はわずか3%であった。市教委学力向上専門員の先生によれば、これは市内でトップの数値とのことだった。
- \* 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」は、100%の生徒が肯定的な回答をしている。生徒会が中心となって『いじめ追放宣言』の取り組みを行ってきた成果である。
- \* 「学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間勉強しているか」について、平日1時間以上の生徒は90%近く、休日2時間以上の生徒は70%近くおり、全国平均を大きく上回っている。



## ☆ 質問紙からの改善点

- ※家庭学習を計画的、継続的に行っている生徒が全国平均を上回っている。学力向上ノートに毎日取り組んでいる成果が現れていると思われる。小中連携も図りながら、今後も継続していきたい。
- ※スマートフォン・SNS・ゲーム等の利用に課題がみられる。テスト期間ごとに実施しているNo TV・ゲーム・スマホ Dayを近隣小学校との連携も深め、家庭と協働して継続していきたい。
- ※授業改善を進め、見通し、振り返りを意識づけ、生徒が自ら課題を見つけ、問題解決できるように、動き出したくなる課題を与えられるよう努める。また、様々な学習場面にICTを活用していくことで、楽しくわかりやすい授業づくりを目指す。さらに、授業と家庭学習がリンクする学習内容の改善を図る。
- ※様々な活動の中で小目標を達成しつつ、成功体験を重ねることによって自己肯定感を高めていく。
- ※コロナ禍のため地域の様々な活動に参加する場面が減ってきているが、可能な範囲で地域との連携を深める努力を図る。地域での存在感を感じさせ、地域の一員であることを意識させ、自分の住むこの地域に誇りを持ち、世界へ向けて発信し、グローバルな視点で地域の発展に関与させていく。また、地域防災におけるそれぞれの役割を理解し、すすんで自助・共助の行動ができる生徒の育成を図る。

## 家庭へのお願い

- \*多くの子どもたちは、学校生活や家庭生活が安定している様子が見られます。しかし、自分に自信が持てないお子さんも多いようです。ご家庭での団らんや励まし、ほめ言葉が、心の支えになるかと思えます。また、生活習慣と、学力との関係は深いものです。生活リズムを整え、親子で規則正しい生活の実践を引き続きお願いしたいと思います。
- \*家庭学習は、習慣化されてきているようです。学習時間を確保し、効果的な学習内容に取り組めるよう、毎年配布している「家庭学習の手引き」を活用してご支援していただきたいと思えます。また、『No TV・ゲーム・スマホ Day』の取り組みをテスト前の学習強化週間中をお願いしているところですが、読書を好きなお子様も比較的多くいます。読書と学力にも深い関係があることがわかっていきます。取り組み期間中でなくても、スマホを置き、テレビを消して、読書の時間を作っていただきたいと思えます。
- \*コロナ禍のため、地域の活動も中止あるいは縮小化されていますので、生徒が地域との関係を深める機会が減っています。参加可能な行事などがありましたら積極的に出席するようご指導ください。そのとき、できれば保護者の方も一緒に参加していただくとお子さんが地域と関わりやすくなると思えます。特に防災関連の取り組みにおいては、有事の際に中高生の若い力が大きな地域の支えになることを自覚させてください。地域に誇りを持ち、自分たちが将来この地域を守り、発展させていく精神を身につけさせたいと思えます。日常的に関われますようご協力をお願いします。



(分析協力：保坂・川原・奥山・飯島)